



「宮内の笠踊り・手踊り」の披露。会場から「スーイスイ」の掛け声。「懐かしいなあ」と涙ぐむ人も。



オーストラリアで津軽三味線奏者として活躍する只野徳子さんが圧巻の演奏。小宮出身の父・豊成さん、息子の大喜さんも共演。



格式を感じさせる「宮仲の神楽」。菓子を撒きながら登場したひよっとも会場を盛り上げました。



若手真打・鈴々舎馬路(れいれいしゃまるこ)の軽妙な落語を、会場が一体になって楽しみました。



ゲストとして出演した音曲漫才「めおと楽団ジキジキ」。観客もノリノリでステージを盛り上げました。



それぞれの歌声で会場を魅了した「トロワ・メロディーズ」は震災後に村民になった3人のグループ。



宮城県石巻市から参加したコーラスグループ「コンプリオ」は飯舘村に縁を持つオリジナル曲を披露。



山岸安博さん(白石)が心に染みるオリジナル曲を披露。観客と主催者に感謝を伝えて歌いました。



「いいたて太極拳サークル」。美しさと迫力を兼ね備えた演舞に会場から大きな拍手が湧きました。



「JAZZ喫茶くま」(上飯樋)に集う音楽仲間のステージがオープニングを飾りました。



華やかな「小宮の田植踊」。小学生・中学生の2人の早乙女が、この日、初舞台を踏みました。



「いいたてフラクラブ」のステージ。多彩な音楽に合わせて、やさしい笑顔でフラを披露しました。



「琴の会」は技巧を駆使した箏曲を披露。琴の音色の新たな魅力に惹きつけられた方も多かったのでは。



「奥州相馬赤坂神楽団」による神楽の披露。お囃子に合わせて獅子が鮮やかに舞いました。



「いいたて愚真会」の温かい蕎麦や「極久里珈琲」のコーヒーの振る舞い、「ゆかり農園」の軽食販売も人気を集め、久しぶりに顔を合わせた人同士が、観覧の合間に、笑顔で会話を弾ませました。お開きの後には「こんなに芸能が見られてよかったなあ」「素晴らしかった」という声も聞こえてきました。

2月16日、交流センター「ふれ愛館」で「いいたて村芸能発表祭」を開催しました。今年の発表祭には4つの伝統芸能の保存会が出演した他、個人と団体合わせて8組が音楽、フラ、太極拳などを披露。さらに2組のゲストのステージもあり、非常に充実した発表祭になりました。伝統芸能の披露には会場から「懐かしいなあ」「やっばりいいなあ」という声も漏れ聞こえ、個人・団体の多彩な発表には、「すごい」「かっこいいな」の賛辞。また、ゲストの音曲漫才や落語では大笑いをして、会場に活気があふれました。

いいたて村芸能発表祭



温かなコメントでステージと観客をつないだ司会の和合敦子さん。